

千曲川の洪水の想定条件

この洪水避難地図(洪水ハザードマップ)において、千曲川がはん濫して洪水が発生すると考えられるのは、次のような条件のときです。

洪水が発生するおそれのある大雨の時は

100年に1回起こると考えられている降雨で、千曲川流域全体で、大雨が2日間降り続いた場合の雨量の規模を想定しています。

この地図では、浸水予測計算(平成15年度長野県実施)の結果に基づいて、想定した大雨により浸水が予測される範囲と、そのときの最も深い水深を図に示しています。

なお、この地図に示した浸水する範囲とその深さは、長野県が管理する千曲川の区域でのはん濫を想定したもので次のことを考慮していません。

- ① 合流するその他の中小河川や水路によるはん濫
- ② 内水(河川に排水できずにはん濫した水)によるはん濫

このため、この地図に示した区域以外の場所が浸水したり、実際の深さが異なる場合がありますので注意してください。

■ わが家の避難地図を作りましょう！！

このマップによって自宅等が浸水する可能性を確認された場合は、洪水時に身を守るため、以下の手順で「わが家の避難地図」を作成し、いざというときに備えておきましょう。

- ① 家の周辺を拡大したコピーを作り、「わが家」から「避難場所」までの安全な経路を書き込みましょう。
- ② 避難する際に、避難経路上で注意すべき場所を書き込みましょう。

特に次のような場所は危険です。

- 普段から浸水がよくおこる場所
- がけ崩れや土石流などの土砂災害がおきそうな場所
- 水路やマンホールが多い道路